

2013 国際教養科 NEWS 11月(1)

信州大学教育学部との高大連携授業 10/17(木)

本校の卒業生でいらっしゃる大先輩の信州大学教育学部 小池浩子先生に本校にお越しいただき、国際教養科2年生を対象に授業を行っていただきました。授業のテーマは、「真の国際人に求められる要件」で、異文化シミュレーション（擬似体験）を通じて、生徒たちは異文化理解の大事な基本を学べたと思います。生徒たちの様子から、自分たちとは違った文化で生活している人を理解するのはそんなに簡単なことではなく、自分たちの価値観や思い込みだけで相手を理解しようとしてもうまくいかないと感じました。だからこそ、相手のことを少しでも理解できた時は大きな喜びになるということも。真の国際人になるには、相手を理解するために謙虚な姿勢と寛容な心で批判的にならず、理解しようとするコミュニケーション能力が必要なのだと思います。将来、生徒たちが国際的な舞台上、国際人として、世界の様々な人と接し、相手の文化を理解し、戦争のない平和な世界で仲良くやってほしいことを願う時、今日の授業で学び、感じたことはきっと役立つことでしょう。



私は、何百年も昔の日本人が貿易を通じて、外国人と触れ合った時の気持ちは、今日（の授業で）私たちが感じたものと同じものではないかと思いました。初めて見る文化、初めて聞く言葉、食生活や風習の違いなど....。日本人が初めて「海外」を意識した歴史の上に、今の私たちは立っているのだなど切実に感じました。もし、これから未だ見ぬ文化に触れる機会があったら、私たちは全ての固定観念をなくして、一つ一つ理解していく必要があるのだとわかりました。小池先生

のような方にレクチャーしていただく機会があって、とても良かったです。ぜひ、信州大学に入学して、再び小池先生の講義を受けたいと思いました。（国際教養科2年）

私が大事だと思ったのは、相手に対して先入観を持たないことと、知ろうと思う積極的な姿勢だと思います。異文化に対してはわからなくても興味を持つことに意味があるのだと思います。外国の文化を受け入れる面では難しいこともあるだろうし、自分の中で絶対に許せないラインもあるとは思いますが、でも、多様性を受け入れて一緒に生活するためには、お互いに譲りあったり、きちんと正しく理解しあうことが大事だと思います。（国際教養科2年）



国際教養科特別授業② 講演会 10/17(木)

長野市若穂にある滝澤医院（産婦人科・内科）院長の滝澤緑先生に講師をお願いし、「産婦人科医が高校生に伝えたいこと」という演題で、講演会を行いました。今回の講演会は、北長野ブロック学校人権教育連絡協議会の開催に合わせて行い、国際教養科特別授業②と同時に、全校生徒対象の平和人権教育と性教育の特別授業として位置づけ、行いました。

滝澤先生は今年の3月に娘さんが本校の国際教養科を卒業したこともあり、本校と国際教養科の実態をよくご存知の上でご講演していただいたので、生徒にとってはとてもわかりやすかったです。特に、国際教養科としては女子生徒が多いこともあり、女性の妊娠・出産の時期と仕事とのバランス（晩婚化・晩産化の問題）やそれを取り巻く現在の社会環境についてのお話は、将来的に大変参考になり、ジェンダー（社会的、文化的に形成される男女の差異）の問題として深く考えた生徒もいました。



一番驚いたのは、女性には子作りのリミットがあるけど、男性にはないということです。これでいて、女性の晩産化・少産化が進んでいるのは女性にとっても日本にとっても大きな問題であると思いました。また、子どもを作るために背負う女性のリスクがこんなにも多くあることは知りませんでした。それくらい子孫を残すことは大変で、大事なことなんだと思いました。そこには様々なホルモンが関係していて驚きました。（国際教養科2年）

確かに子どもを産むことは大事だと思うが、産むには自分の体調やこれからきちんと育てるという覚悟、子どもを育てるために必要なお金、子どもを健全に育てられる場所を確保することなど多くの問題があります。……私は政府にもっと子どもを産み、育てやすい社会をつくってほしいと思います。子どもを産むことをいくら推奨しても、現実には厳しいし、私たちだけでは到底、変えられません。女性の社会進出もないがしろにされない環境をつくれれば、もっと多くの女性が子どもを産むことを前向きに考えられると思います。（国際教養科1年）

発展途上国では、女性は差別される対象にあることが多いが、日本では男女の差が少しずつ縮まり、数十年前よりもはるかに多くの女性が働くようになった。私はこれはむしろ喜ばしいことだと思う。これから考えていくべき問題は職場で働いて、キャリアを積みたいという女性たちをどのように周りがサポートしていけるかだ。そういうことを産婦人科や行政分野だけでなく、社会全体で様々な角度から考えていくべきだと思った。（国際教養科1年）

滝澤先生が最後にお話いただいた、「自己肯定感を持つことが大事だ」という言葉を聞いて、はっとしました。私はいつも自分のやっていることや言っていることにあまり自信が持てなくて、プレゼンなどで人前で話す時は、大きい声で話さなければいけないなと思っても小さくなってしまい、どうしようかと思っていましたが、自己肯定感の話聞いて、やっぱり自信を持つことが大事なのだと思います。これからは、自分のやること、言うことに自信を持てるようにしたいと思います。（国際教養科2年）